

特集—専スポ編集部員の… “部活”体験記

## 剣道部

“侍魂”を学んで 人間形成を図る

剣道と聞くと「怖い」「厳しい」と思う人も多いだろう。私もそのようなイメージを持っていたが、部の雰囲気はとても温かく、今回の体験を経て印象がガラリと変わった。「上下関係は昔ほど厳しくなく、練習も盛り上がります」と三平慎主将(商4・習志野高)。剣道の魅力を「ここでしか会えない仲間に会えること。また、“侍魂”を学ぶことは人間形成に役立ちます」と話す。

太鼓の合図で練習が始まると、学生から選手の顔へと変わる。凜とした空気が身体だけでなく精神まで真つすぐにするようだ。

「自分たちで考えながら取り組む」という、自主性を重んじた形で日々の稽古を積んでいる。竹刀は見た目と違って重い。素振りをする時、時間が経つにつれて握力がなくなるのを感じたが、空気を切るような心地よい感覚が今も腕に残っている。楽しみながら参加させていただき、練習後はさわやかな気分になった。



懸命に素振りを繰り返す加藤(中央) = 撮影・宮山

(加藤 未希・文1)

## ハンドボール部



基礎の基礎、ボールの投げ方から学ぶ田口 = 撮影・中川

豪快なシュート 速攻の掛け合い

初夏の第1体育館。明るい雰囲気の中、今日もハンドボール部は練習に励む。40×20mのコートを舞台に7対7で戦う競技で、バスケットのようにスピーディーで、ラグビーのように激しい。ボールは意外に柔らかく、片手で持てる大きさだ。

「醍醐味は豪快なシュート。一瞬で局面を変える展開の速さも魅力です。ガツガツやっているわけじゃないが、真剣に勝利を目指し、楽しく、激しくやっている部なんですよ」と吉井翔吾主将(経済3・函館東高)は笑顔で話す。確かに最も印象深いのは楽しそうに、そして真剣に練習する部員たちの表情。ハンドボール

や部について「生活の一部」「青春」「喜び」「友達」「一番楽しいスポーツ」と、表現する部員たちの言葉には熱がこもっていた。

1、2年次生主体の若いチームのため、まだチーム作りの段階だが、この情熱が部にプラスの力を与える。秋季リーグでの活躍を期待している。

(田口 能成・経済1)

## アーチェリー一部

的に全神経注ぐ 繊細なスポーツ

高校からの経験者もいるが、アテネ五輪を見て興味を持った人、試射で面白さに魅了された人など、大学から始めた人も多い。弓のサイズは身長・力の強さで異なるため、練習・試合を通して自分に合うサイズを見つけていく繊細なスポーツ。道具やルールの説明を大内健嗣さん(商3・日立第一高)にいただいた後、実際に射させてもらった。

「サイト」と呼ばれる部分で的を狙う。肘を上げつつ弦を引き、気持ちを集中させて矢を放つ。簡単なようで難しく、的に当たらな



い。何度か射るうちに慣れて、的の中に入るようになった。矢が「団体練」で気合の入る荻野(左から4人目)＝撮影・橋本的に当たるのが喜びに変わり、競技の魅力に引き込まれる。実際に体験してみると想像以上に面白く、このスポーツの虜になっていた。一日体験の私でさえ、こんなにも楽しいのだから「自己記録更新や優勝した時の喜びは、練習が苦じゃなくなるほど」と話す部員の言葉もうなずける。

(荻野 敦子・文1)

## 空手部



「突き」の指導を受ける清水(前列右から2人目)＝撮影・中西

心身を鍛え上げ 礼節を重んじる

「空手の面白みは自分との戦いです」。そう語るのは梅田哲史主将(経済4・専大附属高)。心身を鍛え上げ、礼儀を重んじる、それが空手である。専大が所属しているのは正統派と言われる松濤會流。同流派では「型に忠実であれ。空手に試合はないのだ」という教えがあり、試合は行わない。部員たちはそれに従い、日夜「型」稽古を中心に活動している。

昼休みになると、道場には威勢のいい声が聞こえ、部員たちはそろって練習を始める。息の合った掛け声に圧倒される。

「型」の動き一つひとつに意味がある。「しっかり腰を落とす」

など、力の入れどころが意外に難しい。部員たちは汗だくになりながら、ひたすら己の技を磨くため練習を続けている。

練習に参加して、道場を包む張り詰めた空気、そして部員一人ひとりが練習に取り組む真剣な姿勢がとても印象的だった。

(清水 智之・ネット情報2)

## [居合道] 全国各流大会

### 渡部が準優勝（女子二段）、山本は3位に（男子二段）

日本一社林崎居合神社奉納全国各流居合道大会が7月3日、山形県村山市民体育館で行われ、女子二段の部で渡部久美子（文3・原町高）が準優勝、男子二段の部で山本祐樹（経済4・高水高）が3位の成績を取めた。各段別のトーナメントで行われた今大会。渡部は優勝こそ逃したものの、日々の稽古の成果を存分に発揮し見事な演武を披露した。

7月18日に行われた東京都女子居合道大会でも、二段の部（学生）で3位と活躍した渡部は、入賞を喜びながらも「自分の中に甘いところがあった」と振り返った。「この結果を糧に稽古を積み、秋こそ優勝を目指す」と、「優勝」の二文字を見つめる。今後も、彼女の活躍に期待したい。

（橋本 麻未・経済2）



準優勝の渡部＝撮影・橋本



男子3位の山本

《記録コーナー》

◇テニス部

▽+勝オープン女子テニストーナメント(7月4~9日、帯広の森テニスコート)シングルス・石原伶奈(文3・静岡市立高)=ベスト8、ダブルス・古賀淳美(経済2・柳川高)・相羽望(文1・秀明英光高)組=ベスト8

<05年度体育会役員>

4月号掲載時から変更のあった部のみ掲載(敬称略)。

◇弓道部

監督 高木 泰平

◇卓球部

女子監督 阿部 勝幸

※現総監督。同職兼任。

## 「小さな親切運動」

### 生田キャンパス通学路を清掃



毎年恒例の体育会本部主催「小さな親切運動」が7月23日、生田キャンパス周辺で行われた。各部、同好会の有志が参加し、キャンパスから向ヶ丘遊園駅までの通学路を清掃した。途中から2班に分かれ、駅までの道路と120年記念館前のバス停からモスバーガー前の生田緑地駐車場まで、ペットボトルやタバコの吸い殻などを拾い集めた。通学路は地域の方々の道でもある。今後もゴミを捨てないよう専大生らしい、マナーある行動を心がけてほしいものだ。

(伊東 明希・文3)